

平成28年 3月 31日

プロジェクト報告書

団体名 一般社団法人大船渡津波伝承館

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

津波の怖さと教訓を伝える、子ども紙芝居プロジェクト

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

2012年から東日本大震災発災時に撮影した映像を用いて、津波の被災体験と体験から得た教訓を語り部活動を開始。これまで延べ10000人以上の方に被災体験を伝承してきました。しかし、映像が生々しいことと語りの内容が難しくなってしまうため、一番伝えたい次世代の子どもたちに伝えることができないことが大きな課題でした。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

- (1)子どもたち(対象年齢小学生)向けに、津波の怖さ、また津波から命を守るための教訓を盛り込んだわかりやすい物語(脚本)を作家さんに書いて頂きました。
- (2)物語(脚本)を元に絵描きさんに1作品あたり15枚~26枚の絵を描いて頂きました。
- (3)紙芝居を14部制作しました。
- (4)2部は伝承館が保持し、1部を大船渡市内の伝承活動に使い、1部を東京など大船渡市外の伝承活動に使用する予定です。また大船渡市内及び都内で5回紙芝居完成お披露目会を実施しました。
- (5)残りの12部を大船渡市内の12の小学校に寄贈し、先生たち自身が子どもたちに津波の怖さ・教訓を伝えてもらえるようにしました。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

子ども達に津波の恐ろしさを伝えつつも、わかりやすく、恐怖感を与え過ぎないように配慮しました。「津波」と1つの題材で紙芝居を10作品作りしました。津波を様々な角度から描き、被災体験の多様さを伝えようと試みました。紙芝居完成後は、大船渡市内、東京・神奈川などで当初予定よりも多く披露しました。伝承館メンバーにプロの役者さん(大船渡出身)がいたため、故郷への思いを込めて熱演して頂き、「紙芝居を越えている」と好評を頂きました。紙芝居を広くPRするため、紙芝居の動画も作成しました。また、伝承館主催のイベント開催時には大船渡市教育委員会や大船渡市小中学校会会長に来て頂き紙芝居授与式を行いました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

子ども達に津波の恐ろしさや被災から得た教訓を伝えたいとの思いで制作しました。紙芝居制作自体が初めての試みでしたのでわからないことばかりでしたが無事に完成し安堵しています。紙芝居完成後、様々な場所で披露する機会を得ましたが、役者さんの熱演もあり予想以上の反響を頂きました。紙芝居を通して、「あなたに助かってほしい」「津波の悲惨さ、教訓を伝えたい」という伝承館の思いを広く伝えることができるようになりました。特に、子ども達へどのように津波を伝えていくかという伝承館の長年の課題解決に一步前進できて良かったです。ありがとうございます。紙芝居はこれからも改良を重ねながら上演を続けていきたいと思っております。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

